

## 英語①【中学校】

### 少人数指導における 授業形態や指導方法の工夫

#### 質問紙調査の結果より

英語が楽しいと思うのは、「英語が理解できたり、伝えたいことを英語で表現できたりしたとき」と回答した生徒は約半数に上るものの、ALTとの学習や少人数での学習等に若干の課題がある。

#### ★指導のポイント★

- 1 生徒の実態・学習内容・学習過程に合わせたコース編成や弾力的な運用を行う
- 2 少人数のメリットを生かした授業展開を工夫する
- 3 個に応じた指導・仲間とのかかわりを大切にした活動で効果を高める

生徒の実態・学習内容・学習過程に合わせた  
コース編成や弾力的な運用を行う

少人数指導を行う場合、学習の目的によって、また、生徒の実態に合わせて、適切な指導形態を選択していくことが必要である。

年間を通じてすべての授業で少人数指導を行うといった固定的なものではなく、必要に応じて一斉指導を取り入れることで、学習の広がりや深まりが期待できる。

例えば、3年生で修学旅行の感想を書いてスピーチをするという学習活動を行う際、次のような流れで授業を進めることができる。

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 導入・課題の説明       | 【一斉授業】         |
| 2 教科書の内容を中心とした学習 | 【基礎・標準のコース別授業】 |
| 3 スピーチ原稿の作成、発表練習 | 【基礎・標準のコース別授業】 |
| 4 発表会            | 【一斉授業】         |

このように、一斉授業と少人数指導を組み合わせることによって、生徒の習熟度に応じた学習を進めることができ、最終段階では全員が共通の課題を達成し、互いに英語で表現する喜びを共有できる。

また、発表会では、各コースで授業を行う教員が集まり、さ



らにALTにも加わってスピーチの評価を行うことで、評価の客観性も高まる。少人数指導における評価のばらつきをなくすという観点からも、有効である。

少人数のメリットを生かした  
授業展開を工夫する

まとまった英文の内容を理解することを目的

として Reading 教材を扱う際、TASK 1～4の4枚のカードを準備し、一つできたら教師のチェックを受け、合格したら次のカードがもらえるという活動を行った。

TASK 1：重要表現を抜き出す

TASK 2：内容に関するTrue or False

TASK 3：英問英答

TASK 4：本文中の空欄に入る言葉を考える

20人前後の少人数クラスなので、最低でも一人4回教師の所にチェックを受けることになる。生徒一人ひとりの理解状況も把握でき、個別のサポートができるという大きなメリットがある。

少人数だからこそできる活動を取り入れ、そのメリットを生かした効果的な指導方法を工夫することによって、生徒が「分かった!」「自分の伝えたいことが言えた(書けた)！」という喜び・達成感を味わえる授業が可能になる。

### 個に応じた指導・仲間とのかかわりを大切に活動で効果を高める

習熟度別による少人数指導の場合においても、個人差は見られる。だからこそ、少人数指導の中でも、個に応じた指導を意識することが大切である。

少人数指導の中でコミュニケーション活動を行う際には、一人ひとりに目が行き届きやすいというメリットを生かし、困っている生徒へのサポート、活動の様子を見ながらのフィードバックを積極的に行って、活動をより充実したものにしていくことができる。

また、一斉指導の中ではなかなか自分の出番がやってこないという状況があるが、少人数指導では一人ひとりにより多くの活動の場、発表の機会を与えることができるので、じっくり基礎・基本の定着を図ることができる。

ワークシートを利用して授業を行う際には、必要に応じて表に Basic 編、裏に Standard 編を印刷し、自分でどちらかを選択して取り組むようにすることも有効である。毎回同じコースに

決めている生徒もいれば、その日の活動内容によって、コースを変えて取り組む生徒もいる。

また、ワークシートは1種類であるが、必要に応じて参照できる「ヒントコーナー」を裏面に入れておくことも考えられる。

このように、自分の力に応じて課題に取り組めるような工夫を加えることで、少人数指導の効



果をより一層あげることができる。

アンケートなどを見ると、「会話をするのでよく覚えられる」「学習したことを使ってゲームをするのは楽しい」という声が挙がる。実際、仲間と協力しながら取り組む活動を仕組みば、「100語程度の英文カードをどんどん読んでクイズを解いていく」「バラバラになったカードを組み合わせて状況に応じた英文を作る」「スキットを作る」といった難易度の少し高い課題であっても、意欲的に取り組んでいる姿が見られる。

Unit ごとの単語チェック (ペア) は、たくさんの単語を覚えなければならぬというやや苦痛に感じられる活動ではあるが、生徒は楽し



そうに取り組み、回を重ねるごとに一つずつ確実に覚えている様子が見える。このように、「仲間とのかかわり合い」も授業の中での欠かせない要素である。

少人数指導を設定するだけで高い効果が得られるわけではない。個に応じた指導や仲間とのかかわりながら学ぶ活動などを組み込むことによって、分かる喜びや課題を達成できた満足感が生まれ、個々の学びが一層深まっていく。